

越前市子ども読書活動推進計画

～「すべての子どもがあらゆる機会と場所において

自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくり～

平成 29 年 3 月

越 前 市

越前市子ども読書活動推進計画 目次

はじめに

第1部 第一次計画期間〈平成24年～平成28年〉における取組み

1 家庭における取組み	1
2 地域における取組み	1
(1) 市立図書館における取組み	1
(2) 児童センター・児童館、子育て支援センター、地区公民館などにおける取組み	2
(3) 民間団体などにおける取組み	3
3 学校などにおける取組み	4
(1) 小・中学校における取組み	4
(2) 認定こども園・保育園・幼稚園における取組み	4
4 人材育成	5

第2部 第二次計画期間〈平成29年度～平成33年度〉における方針及び取組み

第1章 計画の基本的方針	6
1 計画の目標と計画実現のための取組み	6
2 計画の実施期間と考え方	6
3 計画達成に向けて	7
第2章 計画実現のための取組み	8
1 家庭における読書活動の推進	8
2 地域における読書活動の推進	9
(1) 市立図書館における読書活動の推進	9
(2) 児童センター・児童館、地区公民館などにおける読書活動の推進	10
(3) 越前市かこさとしふるさと絵本館「硯」における読書活動の推進	11
(4) 民間団体、子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける読書活動の推進	12
3 学校などにおける読書活動の推進	13
(1) 認定こども園・保育園・幼稚園における読書活動の推進	13
(2) 小・中学校における読書活動の推進	14

（3）高等学校・特別支援学校における読書活動の推進	16
---------------------------	----

第3章 子どもの読書活動を支える人材の育成	17
-----------------------	----

第3部 計画の推進体制

1 市立図書館、学校、市民活動団体などの連携・協力	19
2 推進方法	20
3 結び	20

【資料1】	21
-------	----

【資料2】	22
-------	----

【資料3】～【資料6】	23
-------------	----

【資料7】～【資料9】	24
-------------	----

はじめに

子どもの成長過程において、読書の果たす役割は極めて重要です。子どもは読書を通し、実生活では体験できない新しい世界に出会うことによって、感性を磨き、探究心や創造力を育み、人生をたくましく生きる力を身に付けていくことができます。

平成13年に、国において「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、翌年「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（現在は平成25年策定の第三次基本計画）が定められました。それを受けて、福井県は平成22年に「元気ふくいっ子読書活動推進計画」を、越前市は平成24年10月に「越前市子ども読書活動推進計画」を定めました。

計画策定後、越前市では、平成25年3月議会において、「読書のまち宣言」を行いました。【資料1】この宣言の中でも、親子での読み聞かせや、子どもの読書習慣を育てる朝読書・家読書・地域読書あさどく うちどく まちどくが取り上げられています。顕著な活動としては、乳幼児期の読書経験の大切さを鑑み、同年7月からブックスタート事業を開始しました。これは、赤ちゃんのときから絵本を読み聞かせることで、親と子が心を通わせ、読書が習慣となることを願っての取組みで、5か月児セミナー時に絵本の読み聞かせを行い、絵本を贈呈しています。

さらに、同年4月には越前市かこさとしふるさと絵本館「らく」(以下「絵本館」という。)が開館しました。絵本館には、越前市出身の絵本作家で児童文化研究者のかこさとし氏の絵本や紙芝居を中心に、同じく越前市で生まれた絵本画家のいわさきちひろ氏の絵本、その他2千冊余りの国内外の絵本が集められています。また、定期的に絵本の読み聞かせや紙芝居の口演、かこさとし氏の絵本にちなんだイベントなども行っています。

また、平成27年度からは、学校図書館の充実を図るために学校図書館支援員制度を設け、市内小学校を巡回しています。

このような5年間の歩みの中で明らかになってきた成果や課題を以後に検証し、子どもを取り巻く社会情勢の変化を考慮しながら、子どもの読書活動をさらに充実発展させるために、「越前市子ども読書活動推進計画」を改定することとします。

第1部 第一次計画¹期間《平成24年度～平成28年度》における 取組み

1 家庭における取組み

- ① 平成25年度から「5か月児セミナー」において、赤ちゃんと保護者が絵本を見ながらゆっくり心ふれあうひとときを持てるよう、ボランティアによる読み聞かせを行い、絵本を贈呈する「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」を実施しています。（セミナー参加者：平成25年度（7月から実施）255人、平成27年度420人）
- ② 平成25年度の「読書のまち宣言」の中に、親子読み聞かせ²や、親子や家族みんな^{うちどく}で読書に親しむ家読書を盛り込み、家庭での読書活動を推進しています。

2 地域における取組み

（1）市立図書館における取組み

- ① 毎週土曜日に、幼児、児童、保護者向けの各種定例行事を実施しています。（平成23年度定例85回実施、平成27年度定例83回実施）
- ② 毎月発行する図書館だより「みんなでとしょかんへ」に子ども向けの図書を1冊紹介し、さらに、夏休み前には、小学生向けに、テーマを決めて学年別のおすすめ図書を紹介した「みんなでとしょかんへ」を発行し、小学校に配布しています。
- ③ 平成26年4月には小学生向けの図書リスト「おすすめの本（低学年向け）（中学年向け）（高学年向け）」を発行し、平成27年4月には赤ちゃん向けのおすすめ図書リスト「0・1・2歳からのえほん」を改訂しました。
- ④ 児童コーナーにおいて、年齢別のおすすめ図書を紹介したコーナーや、テーマを決めて図書を紹介する展示コーナーを設けています。
- ⑤ 越前市出身のかこさとし氏の図書を集めた「かこさとしコーナー」の設置や越前市ゆかりの「紫式部コーナー」の充実、市の伝統産業や偉人に関する図書の積極的な収集及び子どもに向けた展示や特集の実施など、市の歴史や文化を紹介しています。

¹ 今回、「越前市子ども読書活動推進計画」を改定するにあたり、平成24年に策定した計画を「第一次計画」、今回の改定後の計画を「第二次計画」と表します。

² 「読み聞かせ」という言葉に対して、強制的や高圧的といった感じを受けるという意見もあり、「読み語り」や「読み合い」といった別の言葉に置き換える場合もあるようですが、この計画では一般的に普及している「読み聞かせ」という言葉を使います。

- ⑥ 認定こども園、保育園、幼稚園（以下これらを「認定こども園等」という。）、小学校を対象に、市立図書館に来館して、見学を行ったり読み聞かせや図書の貸出などを体験したりする団体利用を実施しています。平成 25 年に絵本館が開館してからは、絵本館を利用する団体が増えたことにより、市立図書館を利用する団体は減少しています。（平成 23 年度 46 団体利用、平成 27 年度 19 団体利用）
- ⑦ 認定こども園等及び児童センター・児童館（以下「児童館」という。）などを対象に、市立図書館職員が出向いて読み聞かせを行っています。（平成 27 年度 59 回実施）
- ⑧ 小・中学校を対象に、ブックトーク及び団体貸出を行っています。ブックトークとは、市立図書館職員が学校に出向いてテーマに沿って本を紹介する取り組みです。団体貸出は、授業に必要な図書や読書のための図書を 30 冊から 50 冊程度貸し出す制度です。さらに、学校で必要とされる図書を団体貸出できるように、授業に関連した図書の充実を図っています。（平成 27 年度ブックトーク 34 回実施）
- ⑨ 平成 27 年 7 月から「ちょこっと予約」を実施しています。「ちょこっと予約」とは、各小中学校図書館単位で市立図書館の図書をインターネット予約し、教育委員会と小中学校間の連絡便を使って予約した図書の貸出及び返却を行う取り組みです。（平成 27 年度 7 回利用）
- ⑩ 市立図書館職員や教員、保育者、市民ボランティアなどの資質向上を図るため、継続してブックトークや読み聞かせなどの研修会を開催しています。
- ⑪ 平成 27 年度末の蔵書冊数は、510,241 冊（そのうち児童書の蔵書冊数は 106,490 冊）で、平成 28 年度末には、およそ 9,000 冊の増加を見込んでいます。第一次計画期間内の目標値は、517,000 冊（そのうち児童書の目標値は 110,000 冊）で、おおよそ目標値を達成しています。
- ⑫ 図書館利用カード登録者数は、平成 27 年度末で 39,632 人です。第一次計画期間内の目標値は 47,300 人ですが、過去 5 年間の年間登録者数の平均は約 2,300 人なので、達成率は 9 割程度になると思われます。これも人口減少や少子高齢化などの影響が一因と思われます。

（2）児童センター・児童館や子育て支援センター、地区公民館などにおける取り組み

- ① 児童館、子育て支援センター及び地区公民館（以下「公民館」という。）において図書コーナーを設け、図書の貸出を実施しています。（児童館：平成 23 年度全 12 館・平成 27 年度全 15 館、子育て支援センター：平成 23 年度 1 館・平成 27 年度 3 館、公民館：平成 27 年度 15 館）
- ② 市立図書館の団体貸出を利用して、子どもたちの求める本を児童館や子育て支

援センター（平成 27 年度 28 回利用）、公民館（平成 27 年度 4 回利用）などで手に取れるようにしています。

- ③ 公民館では、家庭教育支援チーム³と協働で読み聞かせを実施し、絵本の紹介や貸出を行っています。（平成 27 年度 2 館）
- ④ 平成 25 年 4 月に、越前市出身の絵本作家で児童文化研究者のかこさとし氏の全面的な協力を得た絵本館がオープンし、大人も子どもも楽しめる施設として、親子読み聞かせをはじめとした読書活動を推進しています。また、毎年紙芝居コンテストを開催し、全国から応募をいただいています。（応募数：平成 25 年度 53 件、平成 26 年度 32 件、平成 27 年度 27 件）応募者数の減少は、一般応募者数は定着していますが、小学生が個人の応募からグループ応募に変わったことが要因です。
- ⑤ 公民館などの広報誌を活用して、家庭での読書活動の啓発を行っています。（平成 27 年度 13 館）
- ⑥ 公民館の親子教室に参加している保護者を対象に、本の紹介や講演会などのワークショップを開催しています。（平成 27 年度 3 館）
- ⑦ 公民館の放課後子ども教室などの子ども対象の学級で、読み聞かせを実施しています。（平成 27 年度 10 館）

（3）民間団体などにおける取組み

- ① 市立図書館や学校図書館などを拠点として活動しているボランティア団体や個人は、市立図書館や学校と連携して、子どもと本をつなぐ活動を行っています。
- ② 「越前市図書館友の会」は子どもの本に関する講座「子どもの本を楽しむ会」を継続して定期的で開催しています。
- ③ 友の会の中の Y A 倶楽部は、中高生の会員が、毎月中高生向けの図書を中央図書館内のティーンズコーナーで紹介し、機関紙「Y A 倶楽部通信」も発行しています。
- ④ 自治振興会⁴や青少年健全育成越前市民会議などのイベントで、市立図書館や絵本館の職員が、会場にいる子どもたちに読み聞かせを行っています。

3 身近な地域で、子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加する様々な取組みや講座などの学習機会、地域の情報などを提供したりし、子育てや家庭教育を支援するチーム。文部科学省が設定しています。越前市では「オレンジサポーターズ」がその任に当たっています。

4 市民が主役のまちづくりを目指して、地域の問題を解決し地域住民のニーズに応じたきめ細やかなまちづくりを推進することを目的に市内全地区に組織されています。現在、地区公民館と一体となって「自立と協働」を理念とした生涯学習の振興を図っています。

3 学校などにおける取組み

(1) 小・中学校における取組み

- ① すべての小・中学校で全校一斉読書を推進し、読み聞かせやブックトークなどの読書活動を実施しています。
- ② 地域の人材を活用した読み聞かせなどのボランティア活動を推進しています。
(平成 27 年度小学校 16 校、中学校 1 校：平成 28 年度学校図書館の現状に関する調査)
- ③ 読書活動について、すべての小・中学校で委員会活動を通して児童生徒間の異学年も含めた交流を行い、読書の幅を広げています。
- ④ すべての小・中学校で「子ども読書の日」「読書月間」を核とした読書活動啓発運動を推進しています。(平成 27 年度教育課程実施状況等調査)
- ⑤ 学校図書館と市立図書館とが連携して、学校図書館の蔵書の充実を図り、図書を活用した授業を推進しています。
- ⑥ 平成 27 年度より学校図書館支援員制度を導入し、学校図書館の運営をサポートしています。(平成 27 年度 4 人、平成 28 年度 5 人)

(2) 認定こども園・保育園・幼稚園における取組み

- ① 絵本コーナーの展示を工夫し、外国語絵本を取り入れるなど、絵本の充実を図っています。(展示の工夫 26 園、1 園あたり年間平均 70 冊増、外国語絵本導入 2 園：英語)
- ② 地域の人や保護者のボランティアにより、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行っています。(読み聞かせ 15 園：平均月 1 回、紙芝居 12 園：平均年 1～2 回)
- ③ 子どもたちがお気に入りの絵本を持ち帰り、保護者に読んでもらうという、親子読み聞かせを促しています。(24 園：平均週 1 回)
- ④ 保護者向けの講演会や絵本だよりの発行などにより、読書の重要性を啓発しています。(講演会 2 園：平均年 1 回、絵本だよりの発行 13 園：平均年 2～3 回)
- ⑤ 保育者の読み聞かせの技術向上のため、研修会などへの参加を積極的に促しています。(17 園：平成 24～27 年の研修会参加延べ人数 84 人)
(数字は、越前市内 32 園中上記の項目に関するアンケートに回答のあった 27 園について)

4 人材育成

- ① 市立図書館職員は、県立図書館などで開催される児童サービスに関する研修会に参加し、資質向上に努めています。
- ② 学校図書館支援員は、市立図書館などで開催される児童サービスに関する研修会に参加し、資質向上に努めています。
- ③ 市立図書館は、市民ボランティアを対象に研修を実施し、読み聞かせの技術や選書力の向上の支援、指導に努めています。
- ④ 市立図書館職員や学校図書館支援員、市民ボランティアなどが連携、協力して、児童サービスの企画力や実践能力の向上に努めています。

第2部 第二次計画期間《平成29年度～平成33年度》における方針及び取組み

第1章 計画の基本方針

1 計画の目標と計画実現のための取組み

「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくりを目標に、家庭・地域・学校・図書館などがそれぞれの場所で読書活動を推進するため、次のことについて本計画で具体的な活動を示し、市全体で取り組みます。

(1) 家庭における読書活動の推進

家庭で子どもが読書する環境づくりを進めるため、家庭での読書推進について様々な機会を通じて啓発します。

(2) 地域における読書活動の推進

市立図書館が中心となり、地域の公的機関等と連携を図りながら、市民ボランティア等とともに読書活動を推進します。

(3) 学校などにおける読書活動の推進

子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができる環境を整備し、適切に支援します。

(4) 子どもの読書活動を支える人材の育成

家庭や地域、学校などで子どもの読書活動を推進していくために必要な人材の育成を図ります。

2 計画の実施期間と考え方

本計画の実施期間は、平成29年度から平成33年度までの5か年とし、その間、本計画に基づいて、具体的活動を進めていきます。その後も、継続して計画の見直しを行います。

越前市は、本計画を基に子どもの読書活動を推進します。そのために、それぞれの

担当部門で活動を実施している事業について、関係機関、団体との連携、協力を系統的に継続して行うことを明確にします。

なお、計画期間中に具体的活動を実施するにあたり、新たな課題や具体的活動が必要となった場合は関係機関と協議し、その都度計画を見直しすることとします。

3 計画達成に向けて

平成 27 年度全国学力・学習状況調査⁵において、学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらい読書をするかについての質問では、越前市内の小学生、中学生とも、10 分以上 2 時間未満の時間帯で読書をする子どもが全国平均を上回っています。また、授業時間以外で学校や地域の図書館にどれくらい行くかについての質問では、越前市内の小学生が、週に 1 回以上行く頻度で福井県平均や全国平均を上回っています。読書が好きかとの質問では、当てはまる、若しくはどちらかといえば当てはまると答えた越前市の小学生は福井県平均や全国平均を上回っており、中学生は福井県平均を上回っています。【資料 2】

これら全国学力・学習状況調査の読書に関する項目の調査結果や市立図書館の統計数値などを、全国や福井県全体の数値と比較考察することにより、子どもの読書活動を推進し、計画達成を図ります。

⁵ 平成 19 年度から日本全国の小・中学校の最高学年（小学 6 年生、中学 3 年生）全員を対象として行われているテスト。一般に「全国学力テスト」とも呼ばれますが、学力・学習状況の調査的性格のあるテストとなっています。

第2章 計画実現のための取組み

1 家庭における読書活動の推進

【現 状】

年代を問わず、日常生活の中で読書を行う時間が年々減少しています。また、インターネットが浸透し、情報通信機器が発達したことにより、幼い子どもに本を読み聞かせる代わりにDVDやインターネットでの動画を見せる家庭が増加しています。

【資料3】

【課 題】

- ・ 保護者に対し、読書習慣や絵本がある生活が子どもにとってなぜ大切かということの理解を促し、読書が習慣として身につくような環境を整備するため、家庭における「本がある生活」の啓発が重要です。
- ・ 赤ちゃんを愛情豊かに育てるための手段の一つとして、家庭での親子読み聞かせを習慣づけていく必要があります。
- ・ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書が、家族間のコミュニケーションを深めることにつながるということを啓発し、推進していく必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 5か月児セミナーの際に実施している「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」をきっかけに、赤ちゃんへの読み聞かせは親子のふれあいとなることや、家庭に本があることの大切さ、家庭における読み聞かせや読書活動の大切さを啓発します。
- ② 「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」で配布する市立図書館発行のブックリスト「0・1・2歳からのえほん」をはじめ、同館発行の小学生向けブックリスト「おすすめのほん」や関係機関が発行しているブックリストを配布することで、本が選びやすい環境づくり、子どもの周りに常に本がある家庭づくりを推進します。
- ③ 「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」を契機として子どもが本に親しめるよう、関係各課が連携して、家族が揃って市立図書館や図書コーナーのある公民館などの公的機関に出かける時間を持つことの大切さを啓発します。

2 地域における読書活動の推進

(1) 市立図書館における読書活動の推進

【現 状】

図書館は、子どもにとっては、豊富な図書の中から自分の読みたいものを自由に選択し読書の楽しみを知ることのできる場所であり、大人にとっては、子どもに与えたい図書の選択や子どもの読書についての相談をすることができる場所です。

市立図書館では、催事・特集展示・読み聞かせやブックトークなどの実施、おすすめ図書の紹介、各機関との連携など様々な取組みを行っています。市内にある仁愛大学附属図書館とは既に協定を結び、市立図書館の利用カード所持者に限り、仁愛大学附属図書館の資料を借りることができ、相互貸借も直接⁶行っています。

しかし、子どもの利用は年々減少傾向にあります。また、子ども向け図書（特に文学系の読み物）の貸出冊数も減少しています。【資料4】

【課 題】

- ・ 企画や特集をより充実し、子ども向け図書の利用が促進されるような市立図書館の運営を行う必要があります。
- ・ 「団体貸出」や「ちょこっと予約」の活用を促進するなど、地域や学校などとの連携のよりいっそうの強化が必要です。
- ・ 郷土の歴史や文化、伝統などに触れる^{まちどく}地域読書への取組みが求められています。
- ・ 外国人児童及び外国語を学ぶ子どもや、障がいのある子どもに対する読書活動の支援が必要とされています。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 毎週土曜日には子ども向けの催事を定期的 to 実施します。【資料5】
- ② 認定こども園等及び小・中学校との連携を強化します。具体的には、読み聞かせやブックトークを実施するための市立図書館職員の積極的な派遣や、団体利用や団体貸出を促進します。
- ③ 福井県が平成28年度から開始した「図書学校巡回子ども読書推進事業」（図書を学校に巡回させ、一冊を読み通す体験をさせる事業）に併せ、補助資料の団体貸出を実施します。
- ④ 市立図書館から離れた地域の子どものでも学校図書館を通じて市立図書館の図書が気軽に利用できる「ちょこっと予約」の周知を図り、小・中学校に対して利

⁶ 福井県立図書館が行っている、県内市町立・県内大学・近県の県市町村立図書館との相互貸借資料の搬送の定期便（LiBox）を利用せず、市立図書館が直接搬送しています。

用を促します。

- ⑤ 児童コーナーでは、赤ちゃんから小学生を対象にした様々なテーマの特集コーナーを設置し、子どもが読みたくなる、大人が子どもに読ませたくなるような子ども向け図書を紹介します。
- ⑥ ティーンズコーナーでは、中学生や高校生向けの図書を設置し、特に中学生や高校生が読みたくなるようなテーマを決めて特集を実施し、利用の拡大を図ります。
- ⑦ かこさとし氏やいわさきちひろ氏といった越前市出身の作家やゆかりの人物、伝統産業や地場産業などに関する図書を積極的に収集し、これらの図書を活用して、子どもを対象にしたふるさとゆかりの特集コーナーを毎年設置し、地域読書に取り組みます。
- ⑧ 外国人児童及び外国語を学ぶ子どものために、英語やポルトガル語を中心とした外国語で書かれた子ども向け図書を充実します。
- ⑨ 障がいのあるすべての子どもたちが自主的に楽しく読書が楽しめるよう、障がいの状態や程度に応じた図書を整備します。
- ⑩ 子どもの年齢に応じた推薦図書リストを作成し、認定こども園等、小・中学校、公民館などへの継続的な配布及びホームページへの公開を行います。
- ⑪ 仁愛大学附属図書館とは、互いの蔵書の返却図書受取サービスを実施します。
- ⑫ 計画期間内の蔵書冊数は、562,000冊を目標とし、そのうち児童書の蔵書冊数は、118,000冊とします。【資料6】
- ⑬ 市立図書館の利用カードは、小中学生の殆どが登録するよう啓発するとともに、計画期間内の全登録者数は、人口推計値⁷に従い、40,000人⁸を目標とします。

【資料7】

(2) 児童センター・児童館や地区公民館などにおける読書活動の推進

【現 状】

児童館において、親子教室や児童クラブで読み聞かせを実施しています。また、図書コーナーの充実にも努めています。

公民館では、読み聞かせ、地域の昔話のお話し会、古本市、図書室における子どもコーナーの設置、広報誌での読書啓発などを実施しています。さらに、家庭教育支援チームと協力して、未就学児の親子を対象に読み聞かせを行っています。

⁷ 越前市総合計画《基本計画見直し》の人口推計。2020年（平成32年）で80,449人となっています。

⁸ 図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月 文部科学省生涯学習政策局社会教育課）の目標基準例によると、人口8～10万人の規模で、登録者数は人口の約半数となっています。

【課題】

- ・ 児童館や公民館では、子どもが本に興味を持ち読書の習慣が身につく活動を、地域ぐるみで取り組んでいく必要があります。
- ・ 子どもを取り巻く大人への支援を地域で行う必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 児童館や公民館において図書コーナーを設け、積極的な図書の貸出の実施や、市立図書館の団体貸出の利用など、子どもが求める図書を手に取れる環境を整えます。
- ② 児童厚生員や地域のボランティアによる読み聞かせや越前市に伝わる昔話など、身近なお話を紹介し、親子で読書に親しむ機会をつくります。
- ③ 公民館と家庭教育支援チームが協働で読み聞かせを推進し、絵本の紹介や貸出を行います。
- ④ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ^{うちどく}家読書の啓発を行うために、児童館や公民館などの広報誌を活用します。
- ⑤ 公民館主事や児童厚生員についての、子どもの読書活動に関する技術や知識を向上するため、研修会などの情報を積極的に提供し参加を促します。
- ⑥ 親子教室に参加している保護者などに対し、子どもの読書活動に関する研修会の情報提供などを行います。

(3) 越前市かこさとしふるさと絵本館「砾」における読書活動の推進

【現状】

絵本館では、子どもたちが絵本を通じて乳幼児期からの読書習慣⁹を身に付け、子どもたちの創造力や探究心を育むことを目的とした事業を行っています。

【課題】

- ・ 絵本館が収集しているかこさとし氏やいわさきちひろ氏の作品を紹介して、子どもが越前市に愛着や誇りが持てるような活動を行うことが求められています。
- ・ 「本が好き」と言える子どもの育成を図るため、現在の事業を充実し、絵本につながるための本物に触れる機会がより増える工夫をする必要があります。
- ・ かこさとし氏の絵本等の作品につながるための昔あそび・外あそびの充実が必要とされています。

⁹ 読書習慣とは、単に本を繰り返し読むということではなく、子どもが自ら進んで本を読もうとすることを言います。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 「もとのえをみるへや」では、学習テーマを決めて、かこさとし氏の作品の原画等の展示を定期的を実施します。
- ② 「えほんのへや」では、特集本コーナーを設け年数回テーマを決めて、かこさとし氏やいわさきちひろ氏の作品を紹介します。
- ③ かこさとし氏の全作品の収集を図ります。
- ④ 絵本の読み聞かせや紙芝居の口演を実施し、子どもたちが、より絵本に親しむことができる機会の創出に努めます。
- ⑤ 乳幼児・児童・保護者を対象とする行事を、定期的を実施するとともに、「子ども行事カレンダー」にてイベント情報を発信します。
- ⑥ 親子でゆっくりと絵本に親しむことができる環境づくりを推進し、「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」実施の際に絵本館の案内を行い、絵本館への来館を促します。
- ⑦ 市内の認定こども園等及び小学校などに、絵本館の団体利用を呼び掛けるとともに、絵本館にある絵本や紙芝居、昔あそびの道具などを「未来への行進号」¹⁰に積み、「出かける絵本館」事業の利用を推進します。
- ⑧ 社会教育団体や公民館などと連携し、かこさとし氏の作品に登場する昔あそびや自然観察の環境を整備します。
- ⑨ 平成 32 年度には第 17 回全国紙芝居まつり¹¹のプレ大会を、平成 33 年度には本大会を開催します。その他の年には、毎年ミニ紙芝居まつりを開催したり、また、紙芝居コンテストを引き続き実施したりして、紙芝居の普及に努めます。

（４）民間団体、子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける読書活動の推進

【現 状】

子どもに関わる民間団体では、子どもの健全育成を目的とした活動を行っています。子育て支援センターでは、利用する親子に読み聞かせを行うなど、入園前の子どもの保護者に対して読書を通した子と親の触れ合いの大切さについて啓発を進めています。さらに、図書コーナーの図書の貸出を行い、身近に本がある環境づくりに努めています。

市民ボランティアによる読み聞かせなども行われていますが、その技術や知識につ

¹⁰ かこさとし氏が描き下ろし越前市中央図書館に寄贈された絵画「未来への行進」やコウノトリの絵などをボディにラッピングした車輛です。

¹¹ プロアマ問わず紙芝居を学び合い、立場や分野を超えて交流し高め合う場として開催されている紙芝居の全国大会。色々な場所で紙芝居を楽しむ「あっちこっち紙芝居」、紙芝居について多方面から学ぶ「分科会」、夜が更けるまで紙芝居を演じ合う「とことん紙芝居」等で構成されています。

いて格差があるのが現状です。

【課 題】

- ・ 子どもに関わる団体、市民活動団体、文化団体などのさらなる読書活動の推進が必要とされています。
- ・ 読書活動を行う市民ボランティアへの資質向上のための研修が必要です。
- ・ 団体間又は個人間の情報交換と、市立図書館との連携を進めていくことが必要です。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館・小学校などを拠点として活動する団体が、それぞれ取り組んでいる読書推進活動を継続し、さらなる充実を図ります。
- ② 自治振興会、青少年健全育成越前市民会議、越前市子ども会育成連絡協議会及び文化団体などに子どもの読書活動の推進を働きかけます。
- ③ 子育て支援センターや児童養護施設は、市立図書館との連携を強化し、読み聞かせや団体貸出を推進します。
- ④ 「出かける家庭教育サロン」事業を活用し、J P I C 読書アドバイザー¹²の資格などを持つ家庭教育推進員を、公民館・児童館・小学校・認定子ども園などに派遣し、読み聞かせを実施します。
- ⑤ 個人で読み聞かせなどを行っている市民ボランティアに対し、市立図書館から学校等を通じて研修会や催事の情報を提供し、情報共有化を図ります。

3 学校などにおける読書活動の推進

(1) 認定こども園・保育園・幼稚園における読書活動の推進

【現 状】

発達段階に応じた絵本の読み聞かせや紙芝居を日常的に実施することにより、子どもの想像力や集中力を養いながら、子どもの読書習慣づくりを推進しています。

また、本に親しむ環境づくりの一環として、子どもや保護者がいつでも絵本を手にとることができる絵本コーナーの設置及び保護者や地域ボランティアによる読み聞かせを実施しています。

¹² 家庭や地域などで読書の効用を説き、読書の楽しさを再発見するためのアドバイスを行う専門家を認定する資格。主催団体は(財)出版文化産業振興財団。同財団が実施する養成講座を修了すれば資格を得ることができます。

【課題】

- ・ 読書習慣を確立するために、絵本や物語の楽しさと出会う多様な機会を提供する必要があります。
- ・ 絵本を通じた親子のふれあいや語り合いを推進する必要があります。
- ・ 障がいのある子どもや外国人の子どもも、同じように読書を楽しめる環境整備が必要です。
- ・ 職員が積極的に読書に関する研修に参加し、日常的に子どもが読書に親しめるような環境の充実を図っていくことが必要です。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 絵本コーナーでは、展示の工夫や、障がいの状態に応じた図書や外国語の図書を取り入れるなど、充実を図ります。
- ② 読み聞かせを職員が行うだけでなく、地域や保護者によるボランティアを受け入れて、絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に行います。
- ③ 誰もが気持ちよく読書を楽しめるよう、保護者や子どもに対し図書の扱い方を指導します。
- ④ 子どもたちがお気に入りの絵本を持ち帰り、家庭での読み聞かせを促します。
- ⑤ 保護者向けの講演会や絵本だよりの発行などにより、読書の重要性を啓発します。
- ⑥ 職員が子どもの読書活動をさらに推進できるよう、技術や知識の向上のため、市立図書館から情報を得ながら研修会などへ積極的に参加し、読み聞かせや団体貸出などについてもよりいっそう市立図書館との連携を図ります。

(2) 小・中学校における読書活動の推進

【現状】

全小・中学校で全校一斉読書や週末読書、家庭読書が実施され、本に親しむ習慣づけを行っています。

児童生徒の読書活動を推進するため、学校図書館支援員が全小学校を巡回しています。

保護者や地域のボランティアが、朝読書^{あさどく}などで読み聞かせを行っています。

市立図書館との連携により、小学校を中心に団体貸出や図書館司書によるブックトークが行われています。

【課題】

- すべての子どもたちが、読書の楽しさを味わう体験をしたり、適書に親しんだりすることで、意欲的に読書活動に取り組めるようにしていく必要があります。また、そのための環境づくりを行うことが求められています。
- 学校図書館の蔵書数は、平成 28 年度末では全ての小中学校で標準冊数に達していますが、古い図書が多くなっている現状をふまえ、適切な廃棄を行うとともに買い替えを行い、蔵書数の増加や良書の充実を計画的に行うことが必要となっています。
- 学校図書館支援員の活動については、今後も継続的な支援を行う必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 全校一斉読書や週末読書、家庭読書を推進し、読み聞かせやブックトークなどの読書活動の充実を図ります。
- ② 地域の人材を活用した朝読書での読み聞かせや紙芝居の口演などのボランティア活動を推進します。
- ③ 読書活動について、学校行事や委員会活動、朝の会、帰りの会などを通して、児童生徒間の交流（異学年も含む。）を行い、読書の幅を広げます。
- ④ 学校図書館支援員を活用し、市立図書館と連携して、団体貸出やブックトーク、読み聞かせなどを実施し、図書を活用した授業を推進します。
- ⑤ ブックリストを活用して、適書についての意識啓発に取り組みます。
- ⑥ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書ができるように、保護者など大人の読書に対する意識の高揚を図ります。
- ⑦ 教科書やブックリストに対応した図書の購入と廃棄を計画的に進め、学校図書館の蔵書の充実を図ります。
- ⑧ 児童・生徒の委員会活動の充実を図るとともに、保護者や地域のボランティアの活用を推進し、学校図書館の環境を整備します。
- ⑨ 読みたい本をすぐに手に取れるように、学校図書館と市立図書館が連携して、学級文庫を充実します。
- ⑩ 読書の好きな児童生徒を育成することを目的に、福井県が平成28年度から開始した「図書学校巡回子ども読書推進事業」（図書を学校に巡回させ、一冊を読み通す体験をさせる事業）を活用して、学校・市立図書館・家庭が一体となった読書活動を推進します。
- ⑪ 司書教諭と、学校図書館業務にかかわる職員やボランティアとの協力・連携を深め、学校図書館の運営に当たります。

(3) 高等学校・特別支援学校における読書活動の推進

【現 状】

市内にある高等学校4校では、「朝の読書」や「ビブリオバトル¹³」など様々な読書推進活動が実施されていますが、市内の特別支援学校1校も含め、市立図書館との連携は活発ではありません。しかし、平成28年度から市立図書館の「出かける図書館¹⁴」サービスを受けており、今後の更なる連携が期待されます。

また、市立図書館を学習スペースとして利用する高校生は多く、自立的な学習をサポートするセンターとしての役割を果たしてはいるものの、年齢別の貸出冊数を見ると、16歳から18歳の貸出冊数及び貸出人数ともに少ない現状です。

【資料8】【資料9】

【課 題】

- ・ 市立図書館と高等学校図書館との連携を強化する必要があります。
- ・ 市立図書館と特別支援学校との事業協力を推進していく必要があります。
- ・ 高校生に読書の楽しみを伝える、市立図書館や学校図書館の運営が求められます。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館は、高等学校や特別支援学校の司書教諭や学校司書との連携を図り、団体貸出の利用を促します。また、学校側が求めているサービスを調査します。
- ② 学校図書館や市立図書館では、入館した高校生が図書を手に取るような展示・特集コーナーを設置し、図書の配架を工夫するとともに、レファレンスサービス¹⁵を充実させます。
- ③ 市立図書館は、特別支援学校において読み聞かせを実施し、特別支援学校の子どもたちの学びに協力できるような事業の働きかけを行います。

¹³ 各自が本を持ち寄って集まり、本の面白さについて5分程度でプレゼンテーションし合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会です。

¹⁴ 市立図書館が、福祉施設などへ出向いて団体貸出を行う事業です。

¹⁵ 図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務のことです。

第3章 子どもの読書活動を支える人材の育成

【現 状】

市立図書館や絵本館¹⁶では子どもの読書活動に関する市民ボランティア向けの講座を定期的で開催したり、市立図書館において市民ボランティア間の連絡会を実施したりするなど、市民ボランティアの資質向上に努めています。

子どもの読書活動に関連する職員においても、様々な研修の機会を設け、資質向上に努めています。

【課 題】

- ・ 子どもの読書活動に直接かかわる、市立図書館・学校・認定こども園などが、読み聞かせの技術向上の研修会や子どもの本の理解を深めるための講座などを開催したり、参加したりするなどして、職員の資質向上を図る必要があります。
- ・ 市民ボランティアに関しては、個々人の資質の格差や人員の固定化・高齢化などが見受けられるため、後継者などの発掘やさらなる育成を図ることが必要です。
- ・ 市立図書館をはじめとする関係各課が、催事や研修などの開催情報の提供を相互に行い、子どもの本や読書に対する偏見をなくし、理解をしてもらうなど、連携して人材育成に取り組む必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館の職員は、県立図書館などで開催される児童サービスに関する研修会に参加し、資質向上に努めます。
- ② 生涯学習課では、公民館主事の研修の一つとして、J P I C 読み聞かせ研修会への参加を促します。
- ③ 小・中学校では、市立図書館と連携して、読み聞かせやブックトークに関する研修会に積極的に参加し、学校図書館の充実に努めます。
- ④ 認定こども園では、職員の読み聞かせ技術の向上や絵本などに関する知識の充実のため、職員に研修会への参加を促します。
- ⑤ 子どもの読書活動に直接かかわる職員は、研修会のほかにも、良い現場を体験し、園や学校などの必要な情報を理解するよう努めます。
- ⑥ 市立図書館をはじめとする関係各課では、子どもの読書習慣を育てる朝読書・読み聞かせに係わることができる市民ボランティアの発掘及び支援を行い、活動への積極的な参加を促します。

¹⁶ 絵本館では、紙芝居に関する講座を平成28年11月から開催しています。

- ⑦ 市立図書館では、読み聞かせや本の修理、装備などのボランティア希望者に対し、図書ボランティア基礎講習を実施し、図書ボランティア養成に努めます。
- ⑧ 市立図書館では、読み聞かせなどのボランティアを、市広報や図書館ホームページで募集するほか、募集チラシを作成し、配布します。

第3部 計画の推進体制

1 市立図書館、学校、市民活動団体などの連携・協力

【現 状】

市立図書館では、子どもの発達段階に応じた推薦図書リストなどを作成して、認定こども園等及び小学校へ配布しています。

また、中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップなどを受け入れて、子どもが図書館で働くことを学ぶ場を提供しています。

市立図書館、絵本館、越前市生涯学習センター（以下「生涯学習センター」という。）が協力し、子ども向けの行事を連携して開催しています。

教員、学校図書館支援員、市立図書館職員が互いに協力し、学校における子どもの読書活動の推進を行っています。

【課 題】

- ・ 図書館、児童館、絵本館、公民館、認定こども園等、学校及び市民活動団体などにおいて様々な読書推進活動が行われていますが、効果的に実施していくためには連携や協力が不可欠で、さらに推進していく必要があります。
- ・ 小学校、認定こども園等で、保護者が集まる機会を利用して、子どもが本を読むことの大切さを啓発する必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館、児童館、絵本館、公民館、認定こども園等、学校、生涯学習センター及び市民活動団体は、開催する子ども向け事業の情報を相互に提供し、連携・協力ができる体制づくりに努めます。
- ② 市立図書館職員は、小・中学校図書館を訪問し、学校図書館充実の支援を行います。
- ③ 市立図書館は、学校における読書活動や調べ学習を支援するため、学校で必要とされる図書を整備し、団体貸出の充実を図ります。
- ④ 市立図書館は、市関連の子ども向け行事などの際に団体貸出を行い、子ども向けの「出かける図書館」事業を推進します。
- ⑤ 絵本館は、他団体などと連携して、子どもの読書を推進する「出かける絵本館」事業の充実に努めます。
- ⑥ 市立図書館、絵本館、生涯学習センターは、継続して協力し、子ども向けの行事を開催します。

- ⑦ 計画にかかわる団体又は組織は、「読書のまち宣言」を指標として事業を実施し連携の強化につながることを目指し、市立図書館が中心となって「読書のまち宣言」の普及に努めます。

2 推進方法

越前市及び越前市教育委員会（主に図書館、教育振興課、生涯学習課、子ども福祉課、健康増進課を中心に）は、目標実現のために、市民ボランティアの協力を得ながら、市民活動団体、民間団体などとも連絡を密にし、計画期間内の推進状況を把握し、具体的活動について検討するなど、PDCA サイクル¹⁷により計画を推進します。

3 結び

「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境をつくるため、本計画を積極的に推進し、越前市教育振興ビジョンで掲げた「主体的に学びを活かす生涯学習社会の実現」に向けて、市民と協働して「読書のまち宣言」の実現を目指します。

8 PDCA サイクル=Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）という政策サイクル。P 段階での代替案の検討と評価を行った上で、このサイクルを回す必要があります。最もシンプルなマネジメントシステムです。

読書のまち宣言

越 前 市

国府の輝かしい歴史と文化を継承し、はぐくんできたわたしたち越前市民は、地域力を生かして、いつでも、どこでも、誰でも読書に親しむことができる環境を整えます。そして、越前市にゆかりのある本などを読み合うことを通して住むことに誇りを持つ越前市民を育て、夢や希望を語り合えるまちづくりを目指すため、ここに読書のまちを宣言します。

- 1 わたしたちは、赤ちゃんを愛情豊かに育てる親子読み聞かせに取り組みます。
- 1 わたしたちは、子どもの読書習慣を育てる朝読書・読み聞かせに取り組みます。
- 1 わたしたちは、親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書に取り組みます。
- 1 わたしたちは、郷土の歴史や文化、伝統などに触れる地域読書に取り組みます。
- 1 わたしたちは、毎月第3土曜日を市民読書の日と定め生涯読書に取り組みます。

【資料2】 全国学力・学習状況調査(越前市・小学校)

		(%)					(参考)
		H23	H24	H25	H26	H27	H27 全国
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)	2時間以上	5.4	6.2	5.4	8.6	7.5	7.6
	1時間～2時間	7.9	5.9	9.4	8.4	13.6	10.2
	30分～1時間	19.3	19.4	22.2	21.6	24.1	20.2
	10分～30分	29.7	27.2	29.9	31.8	31.8	26.5
	10分未満	14.9	17.0	15.2	15.2	12.1	15.7
	全くしない	22.8	24.4	18.0	14.4	10.8	19.8
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	35.5	29.9	37.7	33.3	39.9	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	72.1	65.4	71.0	74.9	78.7	

(参考)

		(%)			
		H25	H26	H27	
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	福井県	25.8	21.2	26.7
		全国	20.5	18.7	17.6
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	福井県	69.1	70.9	71.5
		全国	72.1	73.0	72.8

全国学力・学習状況調査(越前市・中学校)

		(%)					(参考)
		H23	H24	H25	H26	H27	H27 全国
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)	2時間以上	4.8	4.0	4.6	6.5	5.3	6.3
	1時間～2時間	8.6	8.0	8.7	8.1	9.7	8.7
	30分～1時間	13.9	17.4	17.5	15.9	21.5	15.7
	10分～30分	26.8	22.1	24.5	26.2	36.0	21.7
	10分未満	8.9	9.1	7.9	8.9	8.4	12.6
	全くしない	37.1	39.3	36.9	34.3	18.8	34.8
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	9.5	8.3	11.2	6.8	7.0	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	68.5	70.2	73.5	70.4	67.2	

(参考)

		(%)			
		H25	H26	H27	
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	福井県	9.2	8.0	8.6
		全国	9.3	8.0	8.2
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	福井県	67.6	68.5	66.0
		全国	70.2	69.5	68.0

【資料3】家で本・新聞を全く読まない子どもの余暇時間の過ごし方1位2位：第61回学校読書調査（平成28年版毎日新聞社）

	1位	2位
小学生	家で30分から1時間勉強(37.9%)	テレビ・DVDを30分から1時間見る(24.2%)
中学生	家で1時間から2時間勉強(26.5%)	テレビ・DVDを30分から1時間見る(25.5%)
高校生	テレビ・DVDを30分から1時間見る(29.3%)	スマホ・ゲームを30分から1時間する(27.1%)

【資料4】越前市立図書館 児童関係統計

	H23	H24	H25	H26	H27
児童書の貸出冊数(冊)	180,702	184,657	178,796	188,877	198,009
うち文学系読物の冊数(冊)	42,471	44,467	43,597	42,005	39,273
0～18歳の貸出冊数(冊)	97,181	100,703	94,318	87,495	83,414
全体における割合(%)	18.8	19.8	19.3	16.9	15.9
0～18歳の貸出人数(人)	20,542	20,607	19,100	16,066	15,278
全体における割合(%)	15.7	16.5	15.9	14.0	13.2

【資料5】越前市立図書館 親子向け定例行事

中央図書館

毎月第1土曜日	たのしいかみしばい
毎月第2土曜日	おはなしの会(すまいる工房)
毎月第3土曜日	きつずらんど
毎月第4土曜日	おはなしの会(おはなしあのね)
毎月最終土曜日	名作映画会(大人向けDVD上映会)

今立図書館

毎月第1土曜日	昔あそびと紙しばい
毎月第2土曜日	おはなしおたのしみ会
毎月第3土曜日	こども映画会
毎月第4土曜日	こどもランド

【資料6】越前市立図書館 蔵書冊数 実績値(～H27)と目標数値(H28～)

(冊)

飼料区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
一般	311,481	318,832	324,567	331,541	335,554	338,200	345,650	353,050	359,500	365,900	372,350
児童	97,714	99,667	101,907	103,860	106,490	110,000	111,000	112,000	114,000	116,000	118,000
地域資料	36,589	37,854	39,495	40,680	42,442	43,000	43,500	44,000	44,500	45,000	45,500
雑誌	15,305	15,884	16,879	16,301	17,528	17,500	17,500	17,550	17,550	17,600	17,600
AV	8,374	8,499	8,635	8,575	8,227	8,300	8,350	8,400	8,450	8,500	8,550
合計	469,463	480,736	491,483	500,957	510,241	517,000	526,000	535,000	544,000	553,000	562,000

(平成28年度以降は目標数値です。)

【資料7】 越前市立図書館 利用カード登録者数 実績値(～H27)と目標数値(H28～)

(人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
登録者数	31,013	33,457	35,681	37,507	39,632	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000

(平成28年度以降は目標数値です。)

【資料8】 越前市立図書館 年齢別貸出冊数(上段:貸出冊数 下段:貸出人数) 平成27年度

	6以下	7～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	団体	合計
越前市内	17,148	47,305	7,492	3,911	27,309	84,084	68,931	56,358	84,436	47,475	22,268	466,717
	2,501	8,450	2,033	1,015	6,061	15,004	14,969	14,455	23,062	14,719	2,051	104,320
鯖江市	1,926	2,520	498	226	1,432	7,280	6,882	3,426	5,513	855	0	30,558
	256	444	82	44	329	1,137	1,471	722	1,481	267	0	6,233
県内 その他	346	1,271	117	654	2,660	5,074	4,046	4,863	6,051	2,383	1,109	28,574
	52	223	33	145	581	1,153	865	1,373	1,532	702	691	7,350
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	138	138
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	91
合計	19,420	51,096	8,107	4,791	31,401	96,438	79,859	64,647	96,000	50,713	23,515	525,987
	2,809	9,117	2,148	1,204	6,971	17,294	17,305	16,550	26,075	15,688	2,833	117,994

【資料9】

読む本はどのようにして手に入れていますか(複数回答)

: 高校生の読書に関する意識等調査報告書(平成26年度文部科学省)から

【紙の本】	割合(%)
書店・古書店で買う	73.4
学校の図書館(図書室)で借りる	17.9
地域の図書館で借りる	12.2
友達に借りる	23.5
兄弟姉妹に借りる	8.1
保護者に借りる	8.2
その他	1.3
紙の本は読んでいない(電子書籍を読む)	14.4
無回答	0.7